

1. 概要

これまでの五ヶ瀬川タイムラインの経緯を振り返った後、五ヶ瀬川タイムライン二次案について説明が行われた。二次案に対する意見について聴取を行い、今年度の台風期から二次案を試行していくことを共有した。また、情報共有システムについても公開の案内があった。

2. 実施状況

- 日時：
平成30年6月7日（木）13:00～15:00
- 場所：
延岡市消防本部2F 視聴覚室
- 出席者：
宮崎地方気象台、宮崎県庁河川課、延岡土木事務所、東臼杵農林振興局、延岡市、延岡警察署、延岡市消防本部、九州電力株式会社、宮崎ガス株式会社、九州旅客鉄道株式会社、宮崎交通株式会社、株式会社NTTフィールドテクノ、社会福祉法人社会福祉協議会、延岡市区長連絡協議会、延岡市防災推進員、延岡市自主防災組織連絡協議会、NPO法人宮崎県防災士ネットワーク、延岡地区建設業協会、西臼杵支庁、五ヶ瀬町、日之影町、高千穂町、延岡河川国道事務所
関係機関約60名参加

3. 議事内容

1. 開会／挨拶
2. これまでの経緯について
 - ・水防災意識社会再構築ビジョンにおける五ヶ瀬川タイムラインの位置づけ
 - ・五ヶ瀬川タイムライン検討会の経緯について
3. 議事
 - ・五ヶ瀬川タイムライン二次案について
 - ・情報共有システム（案）について
 - ・今後の予定について
4. 質疑応答
5. 総括
6. 閉会



4. 主な意見・コメント等

①あいさつ 副所長

・想定しうる最大降雨に土砂災害や内水被害を加味した現実に近いタイムライン二次案についてとりまとめを完了させたい。今後の防災活動に活用していただき、さらに充実した内容となるようフォローアップできればと考えている。当検討会を通じて連携強化が図られ、確実にタイムラインが遂行されることにより、市民の安全が確保される。

②総括 村上先生（座長）

1年半かけて二次案までできた。台風期からこの二次案を試行していく。水防に係わる組織が横串でお互いに共通理解を得ながら歯車を回して被害軽減を図るのが目的だった。一番重要なのは情報共有で、お互いに同じ情報を見ながら行動していくことができるようになった。情報の精度と適時性が重要となる。6月25日以降に情報共有システムが公開されるので、過不足がないか確認することが大事である。公開情報以外も共有していくことにも将来的に必要なかもしれない。皆さんの管理している情報を共有できる形で、正確でタイムリーな情報をもとに判断ができるようになるとうい。今回のタイムライン二次案でおおよそ誰が何をかわかってきた。それぞれの組織の中では細分化して行動をとるはず。齟齬があれば二次案をリバイスしていくことになる。このタイムラインと実際組織で動く内容の整合がどうかを確認していくとよりよいものになる。情報の話と組織の行動はリバイスのときに役立つので残しておいてほしい。